

荒川中流部を訪ねる

【六堰頭首工・川幅日本一・第一調節池(彩湖)見学会】



母なる川「荒川」、その名前のおと、荒川は過去幾度となく荒れ、地域に水害による被害を与えてきました。一方、荒川の水は、広く農業用水や発電用水、水道用水として利用され、地域の人々に多くの恩恵を与え、ともに地域の発展を支えてきました。この荒川は、江戸時代初期の付替工事(利根川の東遷、荒川の西遷)と明治から昭和初期の荒川放水路の建設という2つの大きな付替事業により今の形がほぼ作られました。流域内に埼玉県と東京都をもち、流域内人口は約930万人、武蔵水路経由で利根川上流ダム群から来る水も含めた荒川の水利用人口は流域外を含めて約1500万人と、治水上も利水上も重要な河川です。平均川幅1500m、日本一川幅の広い箇所(2500m)、他の河川には見られない26本の横堤群、河川敷に残る豊かな自然など多くの特徴をもつ荒川。その荒川の中流部における治水・利水について学びます。

下記のとおり実施しますので多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時	9月7日(土)	8:00集合
集合場所	JR新小岩駅 東北広場 (裏面地図参照)	
参加費	1,000円 (資料、交通費、保険料の一部として)	
募集人数	45名 (先着順)	boumati_jyuku@yahoo.co.jp 携帯 080-4006-8819
行程	8:00	出発 (集合次第出発します)
	10:00	六堰頭首工・荒川流路付け替え付近・横堤 見学
	12:15	道の駅いちごの里よしみ JA埼玉中央吉見農産物直売所
	12:50	川幅日本一 見学
	13:20	埼玉県自然学習センター
	14:50	荒川第一調節池(彩湖) 越流堤 見学
	15:10	秋が瀬取水堰 見学
	15:35	荒川第一調節池(彩湖) 流入堤 見学
	17:00	JR新小岩駅 東北広場 到着 (道路状況により流動的です。)

※ 昼食は各自ご持参願います。

※ また、昼食時間を特に設定しません。適宜お召し上がりください。

市民防災まちづくり塾・関東地域づくり協会

荒川第一調節池

荒川第一調節池は、治水を目的にした直轄河川改修事業と、利水を目的にした荒川調節池総合開発事業の共同事業で造られています。このうち荒川調節池総合開発事業は、平成9年3月に貯水池「彩湖」を完成させ、現在は水の統合的な管理の下で都市用水を供給しています。

また、直轄河川改修事業としての荒川第一調節池は平成15年度に完成しました。



六堰頭首工

徳川家康の江戸周辺穀倉開発によって、西暦1597年(慶長2年)に現在の熊谷市と旧川本町(現深谷市)の境界付近で荒川を堰き止め、米を作るのに必要な農業用水を取るために「奈良堰」を作ったのが、始まりと言われています。

その後、十数年で約5kmの間に「奈良堰」から荒川の左岸下流に向かって「玉井堰」、「大麻生堰」、「成田堰」、右岸に「御正堰」、「吉見堰」(万吉堰とも呼ばれています。)の六つの堰が作られました。

この六つの用水の総称が「大里用水」と言われています。

荒川は、日照りが続き、雨が降らないと極端に水が少なくなります。

上流にある堰で水を取ってしまうと下流の堰では水が取れなくなってしまうため、六つの堰の農民の間では、田植えのための水争いが絶えませんでした。また、逆に大雨が降ると、荒川に流れ込む水が増え洪水となり、その度に堰が流されて作り直さなければなりません。水争いや洪水に度々悩まされていた六つの堰の農民達は、問題を解消させるため、大正末期に「大里用水路関係六箇水利組合連合」を結成しました。大正15年6月に既存の六つの堰を統合する改良事業の施行を県に申請し、昭和4年度(1929年)から「県営用排水路幹線改良事業大里地区」として県が施行することになりました。そして昭和14年(1939年)に旧花園町と旧川本町の境界近くに六つの堰を統合した「六堰頭首工」が作られました。



新小岩駅東北広場案内図



集合場所

JR新小岩駅北口から北口連絡通路を渡って、□一タリー広場にお集まりください。

